1961年1月16日　第3種郵便物認可　2013年10月1日　第592号（毎月1回1日発行1部100円）
（加盟団体関係者の講読料については、負担金に含まれている。）

ZENBUTSU

全仏

No. 593
仏暦2556年10月
［2013年］

8月30日　いわき市薄磯にて全日本仏教青年会伊東理事長導師のもと各国による慰霊法要
（日本開催・国際仏教徒青年交換プログラム）

目次

あなたの再出発を支えています
更生保護法人 西本願寺白光荘 施設長 **中村 澄枝**……2
日本開催・国際仏教徒青年交換プログラム
―Crisis Management IBYE Japan 2013
全日本仏教青年会直前理事長兼国際委員長 **村山 博雅**……4
財団創立60周年に向けて―第1回準備委員会を開催―……5
InterFaithプログラム実施に向けて……5
第44回高野山夏期講座2013 部落解放・人権夏期講座参加報告…6
関東大震災・都内戦災 遭難者秋季慰霊大法要報告……6
全日本仏教会・全日本葬祭業協同組合連合会 第6回懇談会開催……7
第42回全日本仏教徒会議 和歌山・高野山大会開催にあたり……8

公益財団法人
全日本仏教会
WFB（世界仏教徒連盟）日本センター

あなたの再出発を支えています

更生保護法人　西本願寺白光荘（にしほんがんじびゃっこうそう）　施設長　中村　澄枝

「西本願寺白光荘」は、浄土真宗本願寺派が社会事業の一環として設立した施設です。そして、全国でも数少ない女子専用の更生保護施設です。更生保護施設は、全国で百四施設あります（男子専用九十施設・女子専用七施設・男女施設七施設）。

犯罪や非行をした人の中には、頼れる人がいないとか、生活環境に恵まれなかったり、または本人に社会生活上の問題があるなどの理由ですぐに自立更生できない人がいます。そのような人たちが、保護観察所や家庭裁判所からの委託により、入所してまいります。

更生保護施設として、社会復帰を強く誓いながら帰るところのない、こうした人たちを一定期間保護し、円滑な社会復帰を手助けし、再犯を防止する重要な役割を担っています。

社会復帰を強く誓い、入所時から、すぐに就労活動をしますが、女子施設であるため門限などの規制があり、職種・職域も限られてしまい、受け皿が少ないのが現状です。何よりも地域社会の人々の温かい理解と協力が欠かせません。安心して職に就くことが、更生の第一歩であると考えます。そこで、協力雇用主を募集しています。

私たち施設職員は、被保護者と向き合う中で、親密になりすぎないこと、適度な距離を置いて接し、皆を平等に見るということが重要だと思っています。

私たちは、不幸にして犯罪に手を染めてしまった彼女たちの立ち直りを支援しております。これからも、彼女たちの改善更生を全力で支援して参ります。

甦（よみがえ）りを求めて

補導主任　三好（みよし）　馨子（けいこ）

西本願寺白光荘に入所している人たちは、最年少十五歳から最高齢七十八歳と年齢的にも幅広く、刑務所に入ったことのない者や入所度数（刑務所に入った回数）が二桁の者まで、北は札幌刑務支所から南は沖縄女子学園までと、各方面から幅広く入所いたしております。当施設の処遇の一環としまして、仏教的情操教育の涵養に努め、食事の際には、食前・食後の言葉を皆で唱和し、何でも当たり前ではない、報恩感謝の日々を過ごしております。

他にも仏参行事や京都の四季折々の行事も実施しております。四月の灌仏会では甘茶でお祝いし、盂蘭盆会の集いには、更生保護女性会の皆様からご寄付頂いた浴衣に着替え、法要終了後、屋上にて大文字の送り火を観賞しております。そのほか、春秋彼岸会や元旦会、華道教室や茶道教室も実施しております。とくに十数年来実施している華道教室では、華を生ける前にイメージを持ち、最後に出来上がった作品と一緒に写真をとり、それを家族に見せると大変喜ばれるようで、家族等の調整にも役立っております。茶道教室では、お茶のお点前や行儀作法を習っております。このような年中行事等をとおして、彼女たちの情操面が豊かになるようにと願い、実施しております。

当施設では、保護観察所や家庭裁判所からの委託により、未成年から成人までの女性を一定期間保

更正保護女性会の皆さまによる夕食作り

護しております。彼女たちは何らかの事情により過ちを犯した者でありますが、多くは、家庭での問題や女性であるが故に、当初被害者でもありました。他にも母親との関係が疎遠である者が多いため、愛情不足から、その寂しさを補うのに刹那的に薬物や男性に快楽を求めてきた場合もあります。当職含め職員は、宿日直勤務を日々重ねており、彼女たちが職場から帰ってきてからが重要で、職場での出来事や今後の家族関係の調整等についての相談事が多く、職員も「朋（とも）」になり悩みや相談にのっております。

「朋」という字は同じ月が二つ並んでおり、月が引っ付いているのではなく、適度な間隔であいております。それは、職員と彼女たちとの関係であり、けじめでもあります。その基本姿勢をこころにおき、処遇に生かしております。

他にも処遇する中で、アングリマーラの話を思い出します。今まで残忍な殺人を犯した者が釈尊の弟子になり、ある日行乞に出かけた時に、彼の過去の行為を知る町の者から土や石を投げつけられ、無様な格好で帰ってきた時に、釈尊がおっしゃった言葉は、頑張って精進しているのにとはおっしゃらず、「アングリマーラよ。忍受せよ。」とおっしゃり、被害者側の感情も考慮し、自身が犯して来た行為に対する責任の持ち方を教えられました。

彼女たちの中にも、無駄使いもせずに一生懸命働いて貯蓄しても、身内からは「帰ってくるな」と受け入れを拒否される者や、職場で本人の過去が分かり余儀なく退職した者もおり、いずれまた精進することで、何らかの形で良いことがあると信じて前向きに進んで行くようにと励ましており、厳しい現実を突きつけられても、それを乗り越えはじめて、雲を離れた月のごとく、彼女たちに光が照らされると念じております。

◎事業の運営について

（会員募集のお願い）

白光荘は、更生をめざす女性が「いのち」の喜びにめざめ、こころ豊かな人生が送れるように支援しております。その事業費は、国からの委託金や補助金、そして関係団体や篤志者からの寄付金等によって賄われております。しかし、委託金は現員現額制のため、安定した運営は困難です。

現在、保護司会・更生保護女性会・ＢＢＳ・協力雇用主・本願寺派更生保護事業協会・本願寺派関係団体及び施設・本願寺派仏教婦人会等、多くの方々に事業の趣旨をご理解いただき、寄付金や物資等様々な援助をいただいております。本事業の趣旨をご理解いただき、安定的な事業運営確保のため、皆さま方のご協力をお願いいたしております。

年　会　費

・普通会員　一口　三千円
・賛助会員　一口　三万円

郵便振替口座

・口座番号
〇〇九九〇―七―二二一九八五
・加入者名
更生保護法人　西本願寺白光荘

※通信欄には、普通会員・賛助会員のいずれかと口数をご記入ください。

※お問い合わせ先
〒六一六―八〇七四
京都市右京区太秦安井二条裏町十二番地六
更生保護法人
西本願寺白光荘
ＴＥＬ〇七五―八〇二―二五〇六
ＦＡＸ〇七五―八〇二―一八一一

盂蘭盆会法要

日本開催・国際仏教徒青年交換プログラム
―Crisis Management IBYE Japan 2013

全日本仏教青年会直前理事長兼国際委員長　村山　博雅

去る八月二十五日（海外参加者は二十六日から）～三十日、国際仏教徒青年交換プログラム（International Buddhist Youth Exchange：IBYE）を全日本仏教青年会主催、世界仏教徒青年連盟（WFBY）協力のもと、公益財団法人全日本仏教会、WFB（世界仏教徒連盟）、公益財団法人仏教伝道協会、全日仏青支援の会、公益財団法人大和証券福祉財団等の団体各位にご協賛をいただき盛大に開催いたしました。

行茶（傾聴）活動・いわき市南台仮設住宅にて双葉町の方々と

国際仏教徒青年交換プログラムはWFBYが加盟各国で長年取り組んできた青少年対象のプログラムであり、仏教を通じた将来の社会的リーダーの育成・青少年の国際交流・伝統的仏教文化のグローバル化を目的としてアジア諸国で行われてきました。

この度、二〇〇七年第一回日本開催以来、六年ぶりの開催となった本プログラムでは、平成二十三年三月十一日に起こった東日本大震災にかかり、本会の各加盟団体を始めとする日本の青年僧侶が様々な方向から被災地に寄り添ってきた経験をふまえ、日本・韓国・台湾・マレーシア・タイの五カ国の代表参加者、合計約百名が四泊五日の日程で福島県いわき市に集い、実際のボランティア活動やレクチャーを通して、震災に対する正確な理解を深め、いのち、自然環境、危機管理について学ばせていただきました。

プログラムの具体的内容として、一日目は築地本願寺にて国内参加者に対する事前研修と交流会を行い、二日目は成田国際空港で海外参加者を迎え、移動とともにいわき市の薄磯、久ノ浜等を視察し被災地の空気に触れ、三日目は現地にてボランティアや復興支援を率先された先生方を講師に迎え、現場の正しい情報と知識を学び、四日目はいわき市の仮設住宅における行茶（傾聴）活動と、参加者と同年代である高校生との交流会を行い、人とのふれ合いから被災地の心を感じていただき、五日目は薄磯での慰霊法要とともに、アクアマリンふくしま、スパリゾートハワイアンズ等を訪問し、復興に向かう現地の想いと力を見ていただくというものでした。かなり過密な行程ではありましたが、その綿密に組み立てられたスケジュールの流れの中、深く多くのことを一人一人の胸に刻んでいただけたと、参加者の提出レポートより確認できております。

地震発生より二年半近い年月が過ぎましたが、勿論のことながら、東日本大震災は間違っても過去の出来事ではなく、未だ現在の問題であり、その現実について次代を担う青少年が実際の体験として正しく学び理解していくということは、被災地の復興、放射能に関わる課題、さらに日本の将来を見据えた上で必要不可欠であると考えております。そして、この度の災害に対する切なる思いを被災地内外の青少年が日本全国に伝えていくこと、また、海外からの参加者が日本の青少年とともにその事象を正しく理解し、国際社会に改めて広く発信していくことは、決して風化させてはならない震災の経験を社会に繋ぎ止めるとともに、被災された皆様方への支援が真摯な思いと共に長く継続されていく一助になると確信いたしております。

この度の事業に際しまして、縁ある皆様方におかれましては、多大なるご理解とご協力を頂戴いたしまして誠に有り難うございました。

村山　博雅（むらやま　はくが）

昭和四十六年四月十三日生まれ。曹洞宗洞雲寺住職・東光院副住職。慶応義塾大学環境情報学部卒業、愛知学院大学大学院文学研究科博士課程前期修了。現在、世界仏教徒青年連盟（WFBY）副会長、全国曹洞宗青年会顧問のほか、公益財団法人国際仏教興隆協会理事、本会WFB（世界仏教徒連盟）日本センター運営委員等に就任。

財団創立六十周年に向けて―第一回準備委員会を開催―

本会は平成二十九年に財団創立六十周年を迎える。平成十九年に迎えた創立五十周年では、記念式典・祝賀会、第四十回全日本仏教徒会議神奈川大会、翌年の第二十四回ＷＦＢ世界仏教徒会議日本大会など記念の諸事業を加盟団体と関係各位の協力のもと完遂した。本会は、これらの記念事業の経験を蓄積し、更なる仏教文化の宣揚と世界平和に寄与するための事業を展開してきた経緯がある。

本年五月二十九日開催の第四回理事会においては、「財団創立六十周年記念事業準備委員会規程」が全会一致で承認され、理事から、速やかに準備を進めて欲しいという旨の要請を受け、七月二日に第一回準備委員会を開催した。

第一回準備委員会では、小林正道本会理事長から委嘱状の伝達がなされた後、議題の審議に入り、各委員から様々なご意見を頂戴した。その結果、まずは創立五十周年時に策定された「ＮＥＸＴ50に向けて」を出発点として、そこから六十周年記念事業を検証していく作業が必要であるという基本的なラインの確認がなされた。第二回準備委員会は九月十二日に開催された。

構成は左記の通り

〈委員長〉
関﨑幸孝（本会事務総長）

〈副委員長〉
深澤信善

〈委員〉
齋藤明聖、池田行信、戸松義晴、木内隆志、宮川宏生、山本観晃、入西智彦、壽山良光、垣内善勝、新倉典生、吉水智栄、金子嘉広、村山博雅

（順不同・敬称略）

無料法律相談室

本会顧問弁護士の長谷川正浩弁護士による無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務総局03（3437）9275へ事前予約の上おいで下さい。

InterFaithプログラム実施に向けて

本会は現在、来年二月十六日開催の「京都マラソン２０１４」において、諸宗教者による駅伝をはじめとするInterFaithプログラムの実施に向け、InterFaith日本事務局を設置し（本会内に設置）関係各方面と協議し準備を進めている。

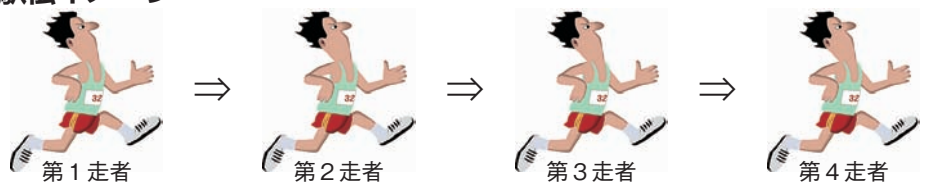
InterFaith駅伝はヨーロッパのルクセンブルク市民マラソンに併催して毎年開催されており、多くの聖職者が参加し、諸宗教間交流を通じ、世界平和へ向けた取り組を行っている。InterFaith駅伝の特長は、諸宗教間でチームを編成し、お互いに協力し合いゴールを目指すというものである。駅伝は記録や順位を競うスポーツ競技であるが、InterFaith駅伝はスポーツを通じて、異なる聖職者同士がお互いを認め合い、手を取り合い世界平和に向けた祈りを発信することを趣旨としている。

この度、日本での開催が実現すれば、アジアで初めての開催となり、駅伝発祥の地である宗教都市京都で、世界の宗教者が集い世界平和を発信することはとても意味深いものとなる。

また、京都開催にあたり、宗教への関心が低下傾向にある若い世代に向けて、宗教に対する理解と造詣を深めるきっかけになることに加え、日本の文化と宗教の寛容性を世界に発信することを目指し、駅伝の実施だけではなく、三日間（二月十四日～十六日）にわたり、諸宗教間交流をはじめ、東日本大震災復興祈願や宗教者と一般の方が交流できるInterFaithプログラムの企画検討を始めている。

今後、諸宗教に協力を仰ぎInterFaith日本実行委員会を組織し、京都での開催実現に向けて準備をしていく予定である。

駅伝イメージ



第四十四回高野山夏期講座二〇一三
部落解放・人権夏期講座参加報告

八月二十一日より標記夏期講座が和歌山県の高野山で開催され、本会より二名の主事が参加した。今年は行政、教育現場、一般企業、宗教界などからおよそ千百人の参加となった。

本講座では、部落問題の歴史から現代社会を取り巻く様々な人権問題に対する取り組みまで、多くの講演会やフィールドワークが用意されており、各々の興味や課題に合わせて選べるようになっている。

講座一日目は、二つの講演に参加。島田妙子氏による「子どもの人権」では、児童虐待をしてしまう親の心を救うことの重要性を、壮絶な被虐待の実体験を交えながらお話されていた。社会運動家の湯浅誠氏による「人権のまちづくりを考える」では、障害者の兄を持つ自身の経験と、障害者の雇用により地域の再生に成功したいくつかの例を挙げながら、人とのつながりによる社会の活性化についてお話されていた。

二日目は高野山大学名誉教授・山陰加春夫氏による「中世高野山における平等と差別」の講義を受けた後、フィールドワークに参加。高野山大学図書館の木下浩良氏による案内のもと、高野山の山内を入口の大門から順に檀上伽藍、女人堂、奥之院まで見学した。

最終日は崔栄繁氏、谷川雅彦氏による「障害者差別禁止法制度をめぐる動向」を受講。平成二十八年四月から施行される「障害者差別解消法」の内容を中心に、法律が作られた背景や過程、今後必要な準備などについて詳しく解説された。

また、本講座期間中、参加者は高野山内の宿坊に宿泊することとなっており、精進料理をいただいたり朝のお勤めに参加したりと、高野山の信仰に触れながら人権問題を学習するという特別な研修となった。

関東大震災・都内戦災　遭難者秋季慰霊大法要報告

去る年九月一日、墨田区横網の東京都慰霊堂において、東京都慰霊協会主催の標記法要が執り行われ、家族を戦災や震災で亡くした遺族等約三百名が参集し、本会からは関崎事務総長が出席した。

大導師は日蓮宗大本山池上本門寺の野坂法雄執事長で同山式衆により読経が進行。東京都仏教連合会各地区代表が随喜した。

今回は皇室を代表して高円宮妃殿下が参列。東京都からは安藤立美東京都副知事が出席して追悼の辞を述べ、続いて藤井都議会副議長、山崎墨田区長、沖山墨田区議会議長からも追悼の辞があった。会場前方には大勢の報道陣が取材につめかけていた。

定刻の午前十時より法要が開始。各追悼の辞が終わってから指名焼香に移り、その後、野坂執事長のご法話で、関東大震災と都内戦災で犠牲になられた方々へのお悔やみと、いのちの大切さについて話された。

法要終了後、会場を第一ホテル両国に移し、午後一時三十分から、五階「清澄」の間にて関東大震災九十周年記念式典が行われた。

最初にチェロとハープによる演奏を鑑賞してから記念式典に入った。東京都建設局の横溝良一局長を始めとして五名の来賓から挨拶があり、引き続いて来賓の紹介があった。そして、寛永寺・浅草寺・護国寺・増上寺・本門寺・東京都仏教連合会・墨田区仏教会等、十二の団体に対して感謝状が贈呈された。

その後、関東大震災九十周年事業について説明があり、九月一日から八日まで「関東大震災九十周年 首都防災ウィーク公式プログラム」を行い、震災・復興・防災を考える一週間にすることが紹介された。特に七日と八日には子どもを対象としたイベントや鎮魂のコンサートが計画され、「震災や戦災について次代を担う子どもたちに語り継いでいきたい」と抱負が語られた。

記念式典の様子

全日本仏教会・全日本葬祭業協同組合連合会
第六回懇談会　開催

去る九月四日、東京・品川プリンスホテルにおいて開催された標記懇談会に、本会より六名が参加した。当懇談会は、本会と全日本葬祭業協同組合連合会（以下、「全葬連」）とが交互に主催しており、今回は全葬連の担当で開催した。参加者は次のとおり（括弧内は役職名）

＝全葬連＝

松井　昭憲（会長）
北島　　廣（副会長）
野杁　章夫（副会長）
清藤　哲夫（副会長）
番作　一之（常務理事）
石井　時明（理事）
松本　勇輝（専務理事）
南　　正毅（事務局長）

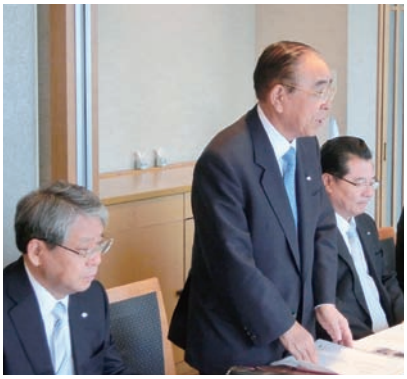
＝全日本仏教会＝

関﨑　幸孝（事務総長）
奈良　慈徹（総務部長）
大辻　隆善（社会人権部長）
加久保範祐（広報文化部長）
新倉　典生（東京都仏教連合会事務局長）
東田　樹治（総務部次長）

午後五時二十五分、全葬連南事務局長の開会の辞で開会。南事務局長が出席者を紹介した後、全葬連松井会長及び本会関﨑事務総長が挨拶をして、懇談に入った。

懇談は、最初に全葬連南事務局長が、最近の低価格の葬儀執行の事例や現物型給付生命保険等について、用意した資料に基づいて説明をし、その後出席者に自由な意見を求めた。出席者より、ここ数年のコミュニティの急激な変化と、それに伴い葬送文化を伝える人がいなくなったことなどが葬祭業界にも大きく影響を及ぼしている事が報告された。それらの課題に対して、葬祭業界・仏教界ともに今後どのように対処していったらよいか等を中心に意見が交わされた。

当懇談会も回を重ね六回目となり、お互いの立場を理解し、忌憚のない意見交換の場となった。



挨拶をする松井昭憲 全日本葬祭業協同組合連合会会長（左から二人目）

事務総局録事

八月（十六日～三十一日）

十九日▼片山さつき参議院議員来局
▼ＧＲＡＰＨ（株）若狭氏来局
二十日▼局内会議
▼猪口邦子参議院議員秘書斎藤氏来局
二十一日▼第四十四回高野山夏期講座参加（～二十三日）（高野山）
▼第三回広報委員会開催（明照会館会議室）
二十二日▼大和証券佐藤氏来局
二十七日▼オメガコム五十嵐氏来局
▼次年度事業に関する打合せ
二十八日▼ＡＢＳ山中氏他来局
▼高野山真言宗宗務所藪師来局
▼InterFaith日本プログラム打合せ（花園会館）
二十九日▼京都マラソン事務局と打ち合わせ（京都マラソン事務局）
▼浄土宗宗務庁訪問（京都浄土宗宗務庁）
三十日▼真宗大谷派東京宗務出張所長錦師他来局
▼中外日報杉山氏来局
三十一日▼日本仏教福祉学会シンポジウム参加（大正大学）

九月（一日～十五日）

一日▼（公財）東京都慰霊協会主催秋季慰霊大法要参列（東京都慰霊堂）
▼（公財）東京都慰霊協会主催関東大震災九十周年記念式典参加（第一ホテル両国）
二日▼文化庁主催宗教法人実務研修会出向（福島）
三日▼第七回総務財政審議会開催
四日▼文化庁訪問
▼全日本葬祭業協同組合連合会との懇談会（品川プリンスホテル）
五日▼ＮＰＯ法人中村元記念館東洋思想文化研究所清水谷理事長他来局
▼第四十三回全日本仏教徒会議愛媛大会第二回実行委員会出席（松山市　ムラタホール）
六日▼大和証券佐藤氏来局
▼第九回東日本大震災支援検討会議開催
九日▼東映（株）荻野氏来局
▼ＧＲＡＰＨ（株）北川氏他来局
▼第四十二回全日本仏教徒会議和歌山・高野山大会第五回企画式典部会議・第三回事務局委員会出席（高野山真言宗宗務所）
十日▼局内会議
十一日▼佐藤ゆかり参議院議員講演会第十回政経セミナー参加（都市センターホテル）
▼大村印刷是永氏来局
十二日▼ＡＢＳ木村氏来局
▼財団創立六十周年記念事業第二回準備委員会開催（明照会館会議室）
▼無料法律相談室

哀悼

雲井世雄師（本会二十六期理事）
兵庫県仏教会元会長
九月十四日遷化　七十六歳

第42回 全日本仏教徒会議 和歌山・高野山大会

2013年10月16日㊌／17日㊍ (於) 高野山大学黎明館

開催にあたり

第42回全日本仏教徒会議　和歌山・高野山大会実行委員長
高野山真言宗宗務総長　**添 田　隆 昭**

此の度、第42回全日本仏教徒会議を和歌山県高野山において開催することにあたり、一言、ご挨拶申し上げます。

皆様ご存知の通り、高野山は空海弘法大師様により開かれ、平成27年には開創1200年を迎えます。この様に都を離れた山深い地に伽藍を築かれようとされた大師の意図は何であったのでしょうか。当時、奈良や京都には大寺院が櫛の歯の如く林立し、仏教を学ばんとする僧侶で満ちておりました。しかし、かつて学んだ中国には天台山や五台山があり、都の俗塵を去って山中に座禅瞑想する僧侶が沢山おりました。今の日本の仏教界に欠けているのは、まさにこの様な修行する僧侶なのではないでしょうか。「禅教未だ伝わらず」こう大師は考えられ、弟子達が天下万民の平安を祈り、修行する為の「修禅の道場」として高野山の下賜を願い出られました。冬には零下15度にも達する厳しい気候条件の下での伽藍建立は、大師の並外れた能力をもってしても、非常に困難な事業であったと思われます。高野山麓天野の地に坐す丹生都比売、高野の両明神の援助を賜ったと伝えられておりますが、その後繰り返された荒廃期に、必ず天野の地をベースキャンプとして、復興に取り組んだという歴史からも、伝承に留まらざる事実を含んでおります。日本古来の神々の力を借り、その神々を山上に社殿を建てて崇め、新しい宗教の守護者とするこれ等の神々は「荒ぶる神等　石根　木立　草の片葉も辞語らいて　昼は狭蝿なす音声い　夜は火の光明く国」の主でありました。しかし大師は「五大に響きあり 十界に言語を具す」とおっしゃられて「草木また成ず　何に況や有情をや」と述べておられます。もはや神々は邪悪ではありません。葉音も不吉でなく、この世は大日如来の説法の声に満たされているのです。大師はこの様に古い神々を包摂し、又神々も新しい地位を仏教の中に得ることができました。

今回の和歌山・高野山大会のテーマは「宗教と環境―自然との共生―」とさせていただきました。高野山の自然豊かな空気に触れていただき、人と自然が互いに調和し、共に生かしあい生きていく道を、一緒に考えたいと思います。日本全国から参加される皆様のお越しを、心よりお待ちしております。

主催：和歌山県仏教会／高野山真言宗・総本山 金剛峯寺／公益財団法人全日本仏教会

2013年10月１日発行
10月号　第593号
全仏 ZENBUTSU
発行人　関崎　幸孝
発行所　公益財団法人　全日本仏教会　電　話　03(3437)9275
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階　ＦＡＸ　03(3437)3260
印刷所　ティケイ ヘンデル アート